

みずほマーケット・トピック(2019年1月11日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場はレンジ内で推移した。週初7日に108円台半ばでオープンしたドル/円は、米12月ISM非製造業指数が予想を下回ったことから一旦下押しするものの、企業のコメントは総じて前向きな内容となったことを受けて株式市場が上昇する動きに108円台後半まで値を上げた。8日は米中貿易協議に対する期待から株式市場が堅調に推移したことを受けて一時週高値となる109.09円をつけたが、その後は株式市場が上げ幅を縮小する中で利益確定売りが持ち込まれ108円台半ばまで反落した。9日のトランプ米大統領の演説では懸念されていた非常事態宣言についての言及はなく、ドル買いがやや強まる中109円台に乗せる場面も見られた。しかし、今年1回の利上げを支持しているボスティック・アトランタ連銀総裁が「ダウンサイドリスクが具現化してくれば利下げも検討」と初めてはっきりと利下げの可能性に言及したことから108円台前半まで急落。その後一旦108円台半ばまで反発したが、FOMC議事要旨で「追加利上げ時期がより不透明になった」などハト派と取れるような内容が明らかになり、また、トランプ大統領が民主党幹部との会談を時間の無駄と退席したことなどが材料視され107円台後半まで下落した。10日は3日間にわたる米中次官級貿易協議が終了し声明が発表されたことで、材料の出尽くし感から一時週安値となる107.77円をつけたが、パウエル議長の講演を控え反発。その後、米30年債入札結果で応募倍率が前回から低下したことから米長期金利が上昇する動きに108円台半ばまで回復した。本日のドル/円は108円台前半で推移している。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は上昇した。週初7日に1.13台後半でオープンしたユーロ/ドルは一時週安値となる1.1393をつけたが、独11月製造業受注が予想を下回ったものの、全般的なドル売りの流れに1.14台後半まで値を上げた。8日は独11月鉱工業生産指数が3か月連続の低下を示したことやユーロ圏12月景況感指数が市場予想以上に伸びが鈍化したことを受けて1.14台前半まで下落。しかし、9日はボスティック総裁の発言やFOMC議事要旨を背景としたドル売りに1.15台半ばまで急伸した。10日は前日の流れを引き継ぎ一時週高値となる1.1570をつけたが、パウエル議長の講演を控えたドル買いや米長期債の入札結果を受けて1.14台後半まで反落した。本日のユーロ/ドルは1.15台前半で推移している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

ドル/円相場の動向

		前週末	今 週			
		1/4(Fri)	1/7(Mon)	1/8(Tue)	1/9(Wed)	1/10(Thu)
ドル/円	東京9:00	107.86	108.56	108.64	108.76	108.19
	High	108.59	108.79	109.09	109.01	108.52
	Low	107.52	108.03	108.44	107.97	107.77
	NY 17:00	108.55	108.71	108.74	108.15	108.43
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1391	1.1411	1.1480	1.1458	1.1555
	High	1.1419	1.1483	1.1484	1.1560	1.1570
	Low	1.1347	1.1393	1.1422	1.1438	1.1484
	NY 17:00	1.1397	1.1475	1.1439	1.1542	1.1500
ユーロ/円	東京9:00	122.94	123.80	124.71	124.59	124.99
	High	123.85	124.80	124.85	125.09	125.07
	Low	122.60	123.43	124.12	124.47	124.37
	NY 17:00	123.67	124.73	124.50	124.78	124.72
日経平均株価		19,561.96	20,038.97	20,204.04	20,427.06	20,163.80
TOPIX		1,471.16	1,512.53	1,518.43	1,535.11	1,522.01
NYダウ工業株30種平均		23,433.16	23,531.35	23,787.45	23,879.12	24,001.92
NASDAQ		6,738.86	6,823.47	6,897.00	6,957.08	6,986.07
日本10年債		-0.04%	-0.01%	0.01%	0.03%	0.02%
米国10年債		2.67%	2.70%	2.73%	2.71%	2.74%
原油価格(WTI)		47.96	48.52	49.78	52.36	52.59
金(NY)		1,285.15	1,289.20	1,285.20	1,293.59	1,286.64



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、今晚に12月消費者物価指数(CPI)、来週15日(火)には12月生産者物価指数(PPI)の発表がある。総合CPIは前月比▲0.1%とエネルギー価格の下落が下押し圧力となる一方で、コアCPIは同+0.2%と前月から横ばいになる見通し。総合PPIもエネルギーが全体を押し下げ前月比▲0.1%、コアPPIは同+0.2%(11月:同+0.3%)と予測されている。16日(水)には12月小売売上高の発表があり、前月比+0.3%(11月:同+0.2%)と小幅加速が予想されている。12月の自動車販売台数は減少となった11月から持ち直しており、小売売上高の自動車部分も増加したとみられる。ガソリンスタンドの売上高は需要が小幅に増加した一方で価格が大幅に減少しており、大きめの押し下げとなりそう。自動車とガソリンを除く小売売上高は同+0.5%と前月と同程度の伸びとなり、過去12か月平均(同+0.4%)を上回る伸びが見込まれている。金融政策関連では、15日(火)にカシカリ・ミネアポリス連銀総裁、ジョージ・カンザスシティ連銀総裁およびカプラン・ダラス連銀総裁が講演を行うほか、次回FOMC(1月29~30日開催)の討議資料となるページブックが公表される。また、17日(木)にはウォールズFRB副議長、18日(金)にはウィリアムズNY連銀総裁およびハーカー・フィラデルフィア連銀総裁の講演などが予定されている。
- ・本邦では、16日(水)に11月機械受注(船舶・電力を除く民需)が発表される。10月の機械受注は前月比+7.6%(9月:同▲18.3%)と2か月ぶりのプラスとなった。ただし、10月を7~9月期対比で見ると▲4.2%とマイナスであり、11月に公表された主要な機械製造業者による10~12月期の機械受注見通し(調査時点は9月下旬)の前期比+3.6%から下振れている。11月工作機械受注(みずほ銀行による季節調整値)は前月比▲4.5%と3か月連続で減少したものの、機械受注は9月に急減からの持ち直しなども踏まえて同+3.0%と増加が見込まれている。

	本 邦	海 外
1月11日(金)	・12月景気ウォッチャー調査	・米12月消費者物価 ・米12月財政収支
14日(月)	成人の日	・ユーロ圏11月鉱工業生産
15日(火)	・12月マネーストック	・ユーロ圏11月貿易統計 ・米12月生産者物価
16日(水)	・11月機械受注 ・12月国内企業物価 ・11月第3次産業活動指数	・独12月消費者物価(確報) ・米12月小売売上高
17日(木)		・ユーロ圏12月消費者物価(確報) ・米12月住宅着工
18日(金)	・12月全国消費者物価 ・11月鉱工業生産(確報)	・米12月鉱工業生産

【当面の主要行事日程(2019年1月~)】

米FOMC(1月29~30日、3月19~20日、4月30日~5月1日)
 ECB政策理事会(1月24日、3月7日、4月10日)
 日銀金融政策決定会合(1月22~23日、3月14~15日、4月24~25日)
 世界経済フォーラム年次総会(1月22~25日)
 米大統領一般教書演説(1月下旬)、米大統領予算教書(2月中)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー(2019年1月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 元日	2 ユーロ圏 製造業PMI(確報、12月)	3 米国 建設支出(11月) 米国 ISM製造業景気指数(12月)	4 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、12月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、12月) 米国 雇用統計(12月)	
7 日本 自動車販売台数(12月) 米国 製造業受注(確報、11月)	8 米国 貿易収支(11月)	9 日本 毎月勤労統計(11月) ユーロ圏 失業率(11月) 米国 FOMC議事要旨 (2018年12月18～19日開催分)	10 日本 景気動向指数(速報、11月)	11 日本 国際収支(速報、11月) 日本 景気ウォッチャー調査(12月) 米国 消費者物価(12月) 米国 財政収支(12月)	
14 日本 成人の日 ユーロ圏 鉱工業生産(11月)	15 日本 マネーストック(12月) ユーロ圏 貿易収支(11月) 米国 生産者物価(12月)	16 日本 国内企業物価(12月) 日本 第三次産業活動指数(11月) 日本 機械受注(11月) ドイツ 消費者物価(確報、12月) 米国 小売売上高(12月)	17 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、12月) 米国 住宅着工(12月)	18 日本 全国消費者物価(12月) 日本 鉱工業生産(確報、11月) 米国 鉱工業生産(12月)	
21	22 日本 金融政策決定会合(～23日) 米国 中古住宅販売(12月)	23 日本 貿易収支(12月) 日本 全産業活動指数(11月)	24 日本 景気動向指数(確報、11月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、1月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、1月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	25 日本 東京都都区消費者物価(1月) ドイツ IFO企業景況指数(1月) 米国 製造業受注(速報、12月) 米国 新築住宅販売(確報、12月)	
28 米国 シカゴ連銀全米活動指数(12月)	29 米国 FOMC(～30日)	30 米国 GDP(速報、10～12月期)	31 日本 鉱工業生産(速報、12月) 日本 新設住宅着工(12月) ユーロ圏 失業率(12月) ユーロ圏 GDP(1次速報、10～12月期) 米国 雇用コスト(10～12月期) 米国 個人消費・所得(12月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(1月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2019年2月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 失業率(12月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、1月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、1月) 米国 雇用統計(1月) 米国 建設支出(12月) 米国 ISM製造業景気指数(1月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、1月)	
4 日本 マネタリーベース(1月) 米国 耐久財受注(確報、12月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、1月) 米国 貿易収支(12月)	6 ドイツ 製造業受注(12月)	7 日本 景気動向指数(速報、12月) ドイツ 鉱工業生産(12月) 米国 消費者信用残高(12月)	8 日本 国際収支(速報、12月) 日本 毎月勤労統計(12月) 日本 景気ウォッチャー調査(1月) ドイツ 貿易収支(12月) 米国 卸売売上高(12月)	
11 日本 建国記念日	12 日本 マネースtock(1月) 日本 第三次産業活動指数(12月) 米国 財政収支(1月)	13 日本 国内企業物価(1月) ユーロ圏 鉱工業生産(12月) 米国 消費者物価(1月)	14 日本 GDP(速報、10～12月期) ドイツ GDP(速報、10～12月期) ユーロ圏 GDP(速報、10～12月期) 米国 生産者物価(1月)	15 日本 鉱工業生産(確報、12月) ユーロ圏 貿易収支(12月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(2月) 米国 小売売上高(1月) 米国 鉱工業生産(1月) 米国 企業在庫(12月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、2月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(12月)	16
18 日本 機械受注(12月)	19	20 日本 貿易収支(1月) 米国 住宅着工(1月) 米国 FOMC議事要旨(1月29～30日開催分)	21 日本 全産業活動指数(12月) ドイツ 消費者物価(確報、1月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、2月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、2月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(2月) 米国 中古住宅販売(1月) 米国 景気先行指数(1月)	22 日本 全国消費者物価(1月) ドイツ GDP(確報、10～12月期) ドイツ IFO企業景況指数(2月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、1月)	
25 米国 シカゴ連銀全米活動指数(1月)	26 米国 S&P500ロジックケース・シラー住宅価格(12月) 米国 新築住宅販売(1月) 米国 消費者信頼感指数(2月)	27 米国 耐久財受注(速報、1月)	28 日本 鉱工業生産(速報、1月) 日本 新設住宅着工(1月) ドイツ 消費者物価(速報、2月) 米国 GDP(2次速報、10～12月期) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(2月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年1月8日	財界トップの相場観と静か過ぎる「波」
2019年1月7日	「バブルは崩れてからがバブル」という考え方について
2019年1月4日	波乱の幕開けの読み方～猪突猛進の円高スタート～
2018年12月27日	3つの論点で要約する19年見通し
2018年12月25日	FRB議長解任騒動について～真正正銘のリスクオフを前に～
2018年12月21日	週末版(FOMCを終えて～新局面への第一歩、為替への影響は～)
2018年12月19日	FOMCを前に読みたい白川元日銀総裁インタビュー
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年11月分)
2018年12月17日	2019年、日米欧のテールリスクはどこにあるのか？
2018年12月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「高まる警戒」と「続く自信」～)
2018年12月12日	2019年、世界経済の勘所～利上げの真価が現れる年～
2018年12月11日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年12月10日	動き出した「メルケル後」のドイツそしてEU
2018年12月7日	週末版
2018年12月5日	遂に発生した逆イールド～金利に追隨する株価～
2018年12月4日	バリ暴動の読み方～2つの懸念～
2018年12月3日	米中首脳会談～2020年まで続きそうな「壮大なマッチポンプ」～
2018年11月30日	週末版
2018年11月28日	メインシナリオへのリスク点検～FRBは来年こそ変わる～
2018年11月27日	続・「安全資産としての円買い」が勢いつかない理由
2018年11月26日	ECB政策理事会議事要旨～TLTRO3の行方～
2018年11月22日	週末版(制裁手続き着手を表明した欧州委員会～イタリアにとっては辛いポリシーミックス～)
2018年11月21日	ノーディールを視野に入れ始めたボンド相場
2018年11月20日	ユーロ圏を巡る資本フローとユーロ相場について
2018年11月19日	イタリア政局を巡る現状と展望～制裁が視野に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年10月分)
2018年11月16日	週末版
2018年11月15日	メイ首相、最後の戦いへ～「外」から「内」へ～
2018年11月14日	ドル/円相場、現水準をどう理解すべきか
2018年11月13日	四面楚歌のユーロ相場～「5つの不安」～
2018年11月12日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2018年11月9日	週末版(米中間選挙の見通しへの影響～不透明感後退も見通し大勢に影響なし～)
2018年11月8日	メンツを賭けた「70防衛」の危うさ～外準減少を受けて～
2018年11月7日	示唆される世界経済の先行き減速懸念～PMIとCLI～
2018年11月6日	露わになるユーロ圏の経済減速～注目されるECBの挙動～
2018年11月5日	米景気改善の「きわみ」～悩ましい貯蓄率の読み方～
2018年11月2日	週末版(ドル相場の近況に思うこと～ドル高の背景と今後の勘所～)
2018年10月30日	「メルケルなきEU」の幕開け～理想主義の後始末へ～
2018年10月29日	メインシナリオへのリスク点検～「高値波乱含み」という警告～
2018年10月26日	週末版(ECB政策理事会を終えて～不安を煽るECBの強気～)
2018年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年10月24日	「安全資産としての円買い」が勢いつかない理由
2018年10月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年9月分)
2018年10月19日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「鏡に映った自分」に踊るFRBの危うさ～)
2018年10月18日	為替政策報告書を受けて～抜きん出た中国の取り扱い～
2018年10月17日	ブレグジットを巡る近況整理～曖昧な危機認識～
2018年10月16日	ユーロ相場と資本フローの近況
2018年10月15日	為替条項要求の冷静な読み方～底うほど弱点として露呈～
2018年10月12日	週末版(国際与信統計が示唆するドル高リスク～ドル建て債務を如何に軟着陸させるべきか～)
2018年10月11日	NYダウ平均株価の大幅調整について～起こるべくして……～
2018年10月10日	ベースス上昇と米金利上昇とドル/円上昇の関係
2018年10月9日	米9月雇用統計を受けて～「想定外の加速」は継続中～
2018年10月5日	週末版(ECBが迎える「未知の世界」～緊縮下での金融引き締め～)
2018年10月4日	ドイツ化するユーロ圏～求められる正しい陣頭指揮～
2018年10月3日	イタリア政局の整理～今回ばかりはイタリアに言い分も～
2018年10月2日	外国人労働者受け入れ拡大～昔「円高是正」、今「人手不足」～
2018年10月1日	円高見通しが実現していない理由
2018年9月28日	週末版
2018年9月27日	FOMCを終えて～見えてきた転換点～
2018年9月25日	メインシナリオへのリスク点検～オーバーキルを巡る見解～
2018年9月21日	週末版
2018年9月20日	安倍首相による緩和撤退宣言～言うは易し……だが～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年8月分)
2018年9月19日	市場は「返り血」を浴びるまで分からないのか？
2018年9月18日	基軸通貨ユーロという「見果てぬ夢」～機能面からの再考～
2018年9月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資方針とユーロ高に対するヒントあり～)
2018年9月13日	突然の基軸通貨宣言をどう読むか～ユンケル発言について～
2018年9月12日	続・リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月10日	リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月7日	週末版(「次の標的は日本」の本気度～第2回日米貿易協議(FFR)を前に～)
2018年9月6日	軟化を続けるソフトデータ～皮肉な米経済の好調～
2018年9月5日	ECB利上げを巡り政治的な動き？～ECOFINのテーマに～
2018年9月4日	主要通貨で「膠着」が続く理由～敵寄せは新興国に～
2018年9月3日	「保護主義は中間選挙まで」という危うい楽観
2018年8月31日	週末版
2018年8月29日	米国株独り勝ちをどう読むか？～BISビューに基づく抑制へ～
2018年8月28日	メインシナリオへのリスク点検～高まる欧州政治リスク～
2018年8月27日	ECB総裁が欧州委員長か～メルケル独首相の変心～
2018年8月24日	週末版
2018年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年7月分)
2018年8月17日	週末版(2018年上半期の対米資本フローの整理～色褪せる「カネ余り」、「ゴルディロックス」～)
2018年8月15日	イタリア国債利回りの急騰～もう1つの潜在的危機～
2018年8月14日	第二次資本流出局面が始まったのか？
2018年8月13日	トルコショックの真の脅威は「欧州難民危機」の再燃
2018年8月10日	週末版
2018年8月9日	ボンド安が支えるユーロ堅調～元安、トルコリラ安も～
2018年8月8日	2018年上半期の円相場の基礎的需給環境
2018年8月7日	中国の米国債売却はあり得るのか？
2018年8月6日	ソフトデータが暗示する世界経済減速
2018年8月3日	週末版(BOE利上げの正しい読み方～市場の本音は「理解に苦しむ」～)
2018年8月2日	FOMCを終えて～蕭々とオーバーキルを予想～